

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育実習事前・事後指導(小)	演習	1	齋藤 尚志
【授業のテーマ及び到達目標】 教育実習は、教職課程で学んだことの総仕上げをする体験学習の場です。ただし、体験学習の場といえども、現場の教員と同様、子どもたちに多くの影響を及ぼす「先生」でもあります。この授業では、教育実習で必要とされる具体的事項を事前指導し、実習終了後は、各自の体験を振り返ることをとおして、さまざまな角度から先生という職業について理解を深めていく。			
【授業の概要】 事前指導では教育実習生としての学校の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深める。前期12回実施する。講義はレジュメおよび映像を用いる。模擬授業は演習形式で行う。 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、将来教員になるうえでの能力や適性を考える。後期3回実施する。			
【全体の授業計画・内容】			
〈事前指導〉全12回			
1. 教育実習の目的と意義	2. 教育実習の内容		
3. 教育実習の心得	4. 小学校現場の現状理解		
5. 子ども観および教育観の確認	6. 教育実習ノートの書き方		
7. 教育技術の基本① ー模擬授業グループAー	8. 教育技術の基本② ー模擬授業グループBー		
9. 教育技術の基本③ ー模擬授業グループCー	10. 教育技術の基本④ ー模擬授業グループDー		
11. 教育技術の基本⑤ ー模擬授業グループEー	12. 教育技術の基本⑥ ー模擬授業グループFー		
〈事後指導〉全3回			
1. 教育実習体験の振り返り ー実習生全員ー	2. 教育実習体験の交流 ー実習生全員ー		
3. 個人面談			
【準備学習の内容】			
予習のあり方: これまでに学んだことを整理しておくこと。児童館や子育て支援サークルなどの保育ボランティアなどたくさんの経験を積極的に積んでおくこと。教育や子どものことなどについて書かれた書籍なるべく多く読み、疑問や迷いを解決するよう努めること。			
学習のあり方: 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対し善悪交々の多大なる影響を与えること、を自覚すること。その上で、子ども自身が育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、その時々々の課題を熟考し、質問や意見など積極的に発言し、授業やグループワークに参加すること			
復習のあり方: 授業内容についての疑問点を整理したり、ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解いてみること。			
【成績評価】			
提出物(授業内レポート、教育実習レポートなど)(20%)、授業態度(30%)、模擬授業(50%) 事前事後指導はすべて出席して評価の対象となります。遅刻・欠席は認めません。普段より健康管理と早めの行動を心がけること。事前指導を一回でも受けなかった者は教育実習に行くことができません。			
【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】			
授業内レポートについては次回冒頭でフィードバックを行う。また最終授業時にも行う。			
【テキスト】			
レジュメおよび資料を配布する。			

【参考文献】

授業中に適宜指示する。